

支援機器等教材活用実践事例フォーマット

実践年度・タイトル		令和(3)年度
		図形の面積
授業について	教科名等	☐ 国語 ☐ 社会 ☒ 算数/数学 ☐ 理科 ☐ 生活 ☐ 音楽 ☐ 図画工作/美術 ☐ 家庭/技術・家庭 ☐ 体育/保健体育 ☐ 特別の教科 道徳 ☐ 外国語/外国語活動 ☐ 総合的な学習の時間 ☐ 特別活動 ☐ 自立活動 ☐ 各教科等を合わせた指導 ☐ その他の教科 ☐ その他(生活・身辺自立・行動の切り替え)
	単元・題材名	図形の面積
	授業の目標	・ひし形は、対角線の長さを調べれば、計算で面積が求められることに気付く。 ・求積公式を用いて、ひし形の面積を求めることができる。
	学力の3要素	☐ 「知識及び技能」 ☒ 「思考力・判断力・表現力等」 ☐ 「主体的に学習に取り組む態度」
学習集団と子供の実態	学校・学部・学年・人数	☐ 通常の学級 ☐ 通級による指導 ☐ 特別支援学級 ☒ 特別支援学校 ☐ 就学前 ☒ 小学生 ☐ 中学生 ☐ 高校生以降 ☐ 特定されない (5)年 (4)人
	対象の障害	☐ 視覚障害 ☒ 聴覚障害 ☐ 知的障害 ☐ 肢体不自由 ☐ 病弱・身体虚弱 ☐ 言語障害 ☐ 自閉症 ☐ 情緒障害 ☐ LD(学習障害) ☐ ADHD(注意欠陥/多動性障害) ☐ その他
	子供の困難さ	☐ 見ること ☒ 聞くこと ☐ 話すこと ☐ 読むこと ☐ 書くこと ☐ 動くこと ☐ コミュニケーションをすること ☐ 気持ちを表現すること ☐ 落ち着くこと・集中すること ☐ 概念(時間、大きさ等)を理解すること ☐ 学習(計算、推論等)すること ☐ その他
支援機器等教材の活用について	活用の意図	Aコミュニケーション支援(☐ A1意思伝達支援 ☐ A2遠隔コミュニケーション支援) B活動支援(☐ B1情報入手支援 ☐ B2機器操作支援 ☐ B3時間支援) C学習支援(☒ C1教科学習支援 ☐ C2認知発達支援 ☐ C3社会生活支援) D実態把握支援(☐ D1実態把握支援) 視覚的に提示することで見るべき場所が分かりやすく注意も持続しやすい。また、情報共有がしやすい。発表時にも活用することで、コミュニケーション手段が異なる児童でも互いに理解しやすくなる。
	使用した支援機器等教材の名称と画像	・iPad(ロイロノート) ・大型テレビ
授業展開	授業展開・支援の手立て	本時の課題(ひし形の面積を対角線を使って求めよう)をテレビで提示した。 まず、紙のワークシートに自分の考えを記入してもらった。どんな形に変形したのか分かるように図に書き込んでもらおうと同時に、その隣に式や文章で自分の考えを書いてもらった。それをiPadで写真に撮ってテレビに提示し、順番にテレビの横で発表を行った。教師は児童の発表に合わせて、補助線やマーカーなどを入れ、他の児童が注目しやすいようにした。
効果・評価	子供の様子や変容および授業の評価	・ワークシートをテレビに映すことで準備に時間がかからず、発表の時間を確保することができた。発表者はテレビの横に立って説明できるため、言葉(手話を含む)だけの発表より見て分かりやすく、見ている児童の発言が増えた。本時は予定していた内容まで終わることができなかったが、同じ画面を何度も提示できるため、次時に振り返りがしやすく、子どもたちはすぐに思い出してひし形の面積を求める公式を作ることができた。 ・児童から出た発言やキーワードを教師がロイロノートに書き込んだり、実際に紙を切って提示したり、黒板を活用したりして、子どもたちの思考の過程に沿った支援ができるようになると、理解はさらに深まると思う。